

事業実施報告書

団体名：特定非営利活動法人新座子育てネットワーク

事業名：障害児を中心とする家族参加型の地域活動支援事業「アフリカポレポレ」

1 事業の目的

児童福祉法の改正により児童発達支援サービスが普及する一方で、障害児家族が体験活動を共に楽しむ場は多くない。その現状を踏まえ、地域の0～18歳までの子どもが多く集う児童センターを会場に、地元で活動する音楽団体「アフリカ新座」と児童発達支援・放課後等デイサービス事業等を行うNPO法人ウェルハーモニーの協力を得て、アフリカ音楽を通じた障害児を中心とした家族参加型のワークショップを開催し、地域活動への参加促進及び活動の継続を目指して本事業を行った。また、専門家監修のもと支援者向けに「ワークショップの手引き」を作成し、他団体が障害児やその家族を巻き込んで地域に活動の場を広げていく事業モデルとするため、障害児支援に携わる他団体へ「支援者向け研修会」を開催した。今後はさらなる活動の継続・発展に向け、引き続き取り組んでいく。

2 事業内容

(1) 事業の概要

①ワークショップ

障害の程度や、年齢に関わらず演奏可能なアフリカの太鼓(ジャンベ)を、障害児家族が共に体験した。

◇障がいのある子どもと家族の音楽活動「アフリカポレポレ」ワークショップの実施

・開催時期：2019年7月20日～8月24日までの毎週土曜日（全6回）

・会場：新座市児童センター 学びの部屋

・講師：アフリカ新座

・対象：障害のある5歳以上の子どもとその家族

※計画では小学生までの障害児としたが、ワークショップ構築の段階で、中学生の参加を検討し参加可とした。

・参加者の特性：ダウン症・広汎性発達障害・自閉症・脳性まひ

・参加人数：7組 延べ参加人数 87名

◇障害児向け音楽ワークショップ構築の打ち合わせと専門家による助言

・実施日時：6/22（土）・6/25（火）

◇追加のワークショップ

「アフリカポレポレ」参加者からの要望で、ワークショップを3回追加して開催

・開催日：9月14日（土）・10月19日（土）・11月9日（土）

・参加人数：7組 延べ参加人数 31名

②発表会（公開ワークショップ）

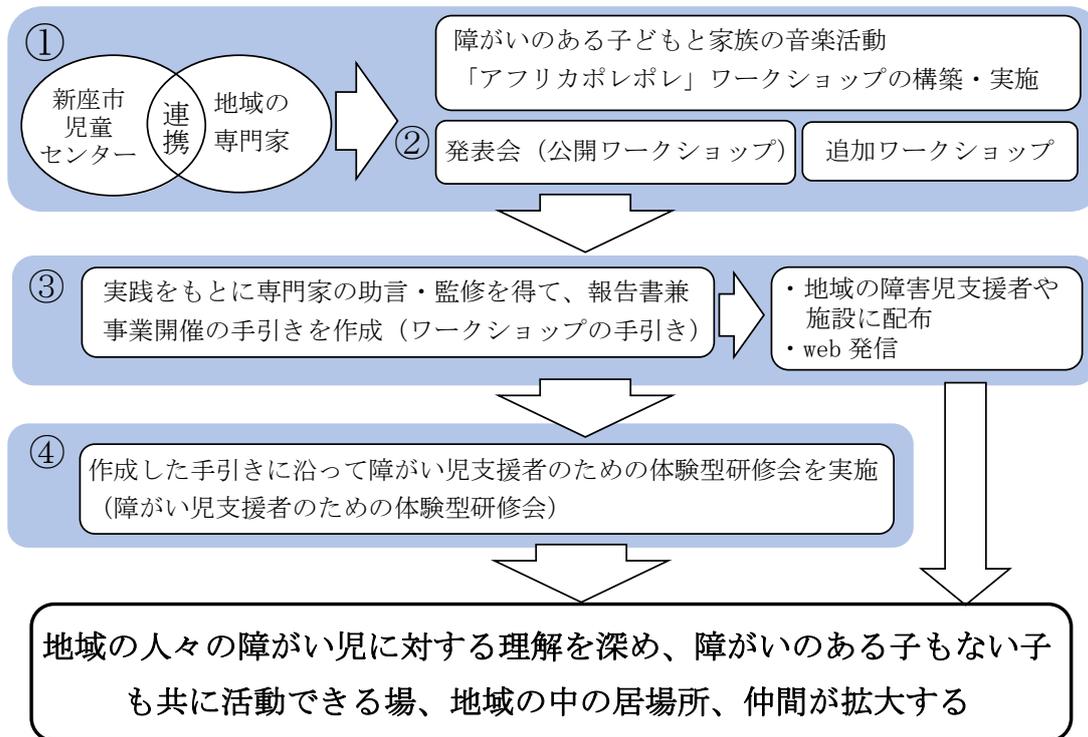
ワークショップを公開実施する発表会を開催した。これまでの参加者に加え、児童センターの一般来館の児童や家族・放課後等デイサービスなどが、障害の有無・学校・団体の枠を越えて交流することができた。

・開催日：2019年8月31日（土）

- ・会場：新座市児童センター 学びの部屋
 - ・内容：アフリカポレポレ参加者と児童センター来館者が一緒にワークショップを体験し交流した
 - ・演奏：ワークショップ参加者、児童センター来館者、アフリカ新座
 - ・対象：市内または近隣在住の児童と保護者、支援者等
 - ・定員：なし
 - ・参加人数：95名
- ③報告書兼事業開催の手引きを作成（ワークショップの手引き）
障がいのある子どもと家族の音楽活動「アフリカポレポレ」開催の報告と、ワークショップの内容をまとめた手引きを作成
- ・監修・助言：アフリカ新座、NPO 法人ウェルハーモニー代表理事
埼玉県立和光南特別支援学校校長
 - ・仕様：A4、カラー、8ページ
 - ・内容：ワークショップのアウトライン、楽器の扱い方、ワークショップ開催の準備から実施のための流れ、障がいのある子どもと家族の音楽活動「アフリカポレポレ」の事業報告、ワークショップ参加者の声
 - ・発行部数：300部
- ④指導者向け研修会（障がい児支援者のための体験型研修会）
作成した手引きに沿って「アフリカポレポレ」の報告と、手引きに基づいたジャンベの体験や意見交換を行う「障がい児支援者のための体験型研修会」を開催。
- ・開催日：2020年1月25日（土）
 - ・会場：新座市児童センター学びの部屋
 - ・講師：アフリカ新座
 - ・対象：放課後等デイサービス等の指導員等
 - ・定員：10名
 - ・参加者：放課後等デイサービス・特別支援学校・聾学校等の団体職員、市議会議員、アフリカポレポレ参加保護者、児童センター職員
 - ・参加人数：12名

(2) 事業の流れ (会場：新座市児童センター)

《事業の概要図》



日時	内容	講師・助言	参加人数	
			子ども	大人
6月22日	障害児向けワークショップ構築の打ち合わせ	アフリカ新座		2人
6月25日	専門家によるワークショップ構築の助言	NPO法人 ウェルハーモニー		1人
6月25日	別添資料(1)ワークショップ開催の案内チラシ配布 (60カ所・300部)			
7月10日	ワークショップの案内と周知依頼	埼玉県立和光南特別支援学校		
7月18日	楽器搬入・打ち合わせ	アフリカ新座		1人
7月20日	ワークショップ実施①	アフリカ新座	8人	6人
7月27日	ワークショップ実施②	アフリカ新座	7人	5人
8月3日	ワークショップ実施③	アフリカ新座	4人	5人
8月10日	ワークショップ実施④	アフリカ新座	5人	6人
8月17日	ワークショップ実施⑤ (お面作り)	アフリカ新座	6人	5人
8月20日	別添資料(2)発表会 (公開ワークショップ) 案内チラシの館内掲示			
8月24日	ワークショップ実施⑥	アフリカ新座	8人	7人
8月31日	発表会 (公開ワークショップ)	アフリカ新座	57人	38人
9月14日	ワークショップ追加実施①	アフリカ新座	5人	7人
10月19日	ワークショップ追加実施②	アフリカ新座	4人	6人
11月9日	ワークショップ追加実施③	アフリカ新座	4人	6人
12月	ワークショップ開催の手引き作成	アフリカ新座 NPO法人 ウェルハーモニー		
12月10日	別添資料(3)指導者向け研修会案内 チラシ配布 (60カ所・300部)			
12月12日	ワークショップの報告 専門家による助言	埼玉県立和光南特別支援学校		1人
1月18日	指導者向け研修会の打ち合わせ	アフリカ新座		2人
1月25日	指導者向け研修会実施	アフリカ新座		12人
2月	別添資料(4)ワークショップの手引き配布 (60カ所・300部) HPにてweb発信 http://www.ccn.niiza-ksdt.com			

(3) 連携・協力機関

- ・NPO法人ウェルハーモニー
- ・アフリカ新座
- ・埼玉県立和光南特別支援学校

《チラシ・手引きの配布先》

- ・新座市内、近隣市（朝霞・西東京他）の放課後等デイサービス
- ・新座市、近隣市（朝霞・志木・和光）の児童発達支援
- ・新座市内の小中学校
- ・社会福祉法人新座市障害者を守る会
- ・キャベツの会
- ・たんぼぼの会

計60カ所



ワークショップの様子



ワークショップ⑤お面作りの様子



発表会（公開ワークショップの様子）



支援者向け研修会の様子

3 成果及び今後の展開

【成果】

- ・地域に開かれた児童センターでワークショップを開催することで、ダウン症・広汎性発達障害・自閉症・脳性まひ等の障害のある子どもとその家族7組17名が集った。障害の度合い、地域、学校などの枠を越えた幅広い参加者が、障害の有無を問わず交流する場、障害児が父母のみならず、祖父母や健常児の兄弟といった家族と共に体験活動を楽しむ場を創出することができた。
- ・公開ワークショップは「アフリカポレポレ」参加者15名に加え、児童センターの一般来

館者58名や、放課後等デイサービス2団体22名を巻き込んで開催した。幼児から高校生、保護者も含め総勢95名が地域の中で入り交じって交流できる場を創出し、障害児親子の地域参加を促すことができた。公開ワークショップがきっかけで「アフリカポレポレ」に新たに参加する家族もおり仲間の拡大につながった。

- ・アフリカ音楽を活用した事業モデルを構築し、その内容をまとめた「ワークショップの手引き」を作り上げることができた。手引きは障害児支援に携わる支援者に広く配布し、他団体が障害児や家族を巻き込んで、活動の場を広げていく手法の一つとして活用することができる。
- ・手引きをもとに開催した「障がい児支援者のための体験型研修会」では、特別支援学校・聾学校・放課後等デイサービスの職員や市議会議員など、障害児支援に携わる多様な12名の参加者がワークショップを体験した。素手で叩ける太鼓の親しみやすさ、アフリカ音楽以外にも応用できる「アフリカポレポレ」の手法が好評を得た。
- ・追加で開催したワークショップを含めた全10回のワークショップを通して、全員でジャンベを叩く一体感を得たり、ダンスで自由に身体表現しながら家族・参加者同士の交流を促した。交流する中で感情が表情や行動に出づらかった子どもたちに、人前でステップを踏んでリードするなどの変化が見られ、自己肯定感の高まりが感じられた。

【今後の展開】

- ・ワークショップの手引きを活用して多くの他団体が活動をすることで、地域の人々の障害に対する理解を深め、障害のある子もない子も共に活動できる場や居場所、仲間が拡大することが期待される。また、令和2年度から「ワークショップの手引き」をもとに、「アフリカポレポレ」開催希望団体のためのサポートを予定しており、説明会を行い地域への普及を目指していく。
- ・事業終了後、参加者からの要望を受け、新座市児童センターの自主事業として月1回継続開催し、家族でアフリカ音楽を楽しみながら交流が続いている。また、令和2年度以降の継続開催も検討しており、居場所の確立を行っていく。
- ・研修会を受講した支援者がアフリカ音楽の面白さに気づき、定期的に活動したり、高価なアフリカ楽器以外の楽器を代用し活動するなど、「アフリカポレポレ」を応用したワークショップを開催することで、さらなる発展が見込まれる。

【アフリカポレポレ参加者アンケートの抜粋】

- ・家族と一緒に楽しめる企画は非常に良かった。兄弟も参加することで本人の気持ちも盛り上がったと感じた。（小1女子の父）
- ・普段は学校とデイのみの人間関係なので、他にもさまざまな人と触れ合える機会が持てて良かった。（小3男子の母）
- ・学校もデイも市外なので、地域でこのような活動をやるのは貴重だった。

(小1女子の母)

- ・障がいをもっている娘にとって習い事はハードルが高く、このような活動は子育てにプラスになると感じた。(小1女子の父)
- ・始めは本当に息子でも参加できるのか、楽しめるのか不安でしたが、誰でも楽しめる、誰でも一緒になれる素晴らしい音楽だと感じた。ぜひいろんな療育の場へ活動を広めていただけたらと思う。(中1男子の母)
- ・息子との良いコミュニケーションの場になった。思いのほか兄弟の食いつきが良かったのに驚いた。いつもは障がい同士、健常同士それぞれの活動が多いので兄弟揃っての活動ができたこと、それを楽しめたことは有意義だった。
- ・親がみんなの前でなにかやる姿を見せられてよかった。

【支援者向け研修会参加者アンケートの抜粋】

- ・リズム等参加しやすい活動で、アレンジもできると感じた
- ・活動に取り入れ、人を見ること、音を楽しむ活動に活用したい。月の活動に定期的に導入ができそうです。
- ・子どもにわかりやすいプログラム、言葉選びをよく考えられているのが感じられた。流れがわかりやすく、慣れていない子どもでも一体となって楽しみやすい。
- ・普段から楽器に触れる機会が多い方です。アフリカの文化と簡単な楽器を組み合わせることから始めるなど、職場に持ち帰って参考にさせていただきたいです。
- ・音楽やダンスに垣根はないと思った。楽器を生かして遊ぶことを考えるきっかけになりました。
- ・地域との交流の場としての活動で、音楽を取り入れることで子どもたちが好きに楽器に触れ音を出し体で色々感じられる良い活動だと思いました。
- ・太鼓はだれでも音が出せることを体感できて、笑顔が溢れるプロセスが感じられた。
- ・対象を限定せずできると思う、音楽を通して交流や心身の成長になることをもっと啓発したい。